

公営競技の競技場観戦者の特性に関する研究 ～競馬・競輪・競艇に注目して～

A Study on Characteristics of Spectators of Public Games —Focusing on the Horsing Race, Cycle Race, Motorboat Race—

1K04B025-0

岩野 祐太

指導教員

主査 磯繁雄先生

副査 石井昌幸先生

緒言

現在スポーツの形態は多様化しており、その中で、近年では、「するスポーツ」と共に「みるスポーツ」の注目が高まっている。W 杯サッカーやオリンピックはますます拡大の様相をみせ、テレビの視聴者数、スタジアムや競技場での試合観戦者数ともに増加し続けている。

しかし、観客動員数を減らしているスポーツも多く、公営競技もその一例である。公営競技の観客動員数の減少を食い止め、さらに増加させるためには、公営競技観戦者の認識や特性、そして観戦動機を調査・研究し、それらを理解する必要がある。しかし、プロ野球などのメジャースポーツと比較してこれらの公営競技の観戦者に関する研究は少ない。また、公営競技においては、「ギャンブル性」という大きな経済的側面を持っているという点などで、他のプロスポーツとは異なっている。

今回は、これらの背景を踏まえ公営競技の直接観戦者の様々な意識・解釈をスポーツの視点から着目し、公営競技に参加している人々を対象にアンケート調査法により明らかにすることを試みた。

方法

2007 年の 11 月 17、18 日に東京競馬場、11 月 14 日から 16 日にかけて西武園競輪場、11 月 20 日、21 日に江戸川競艇場で行われたそれぞれの競技の直接観戦者を対象に面接調査法でのアンケート調査を行った。このときの有効回答数は 209 だった。

調査項目は、基本的特性について、1. 性別、2. 年齢、観戦者の認識について、3. 競技をスポーツと捉えているか、ギャンブルと捉えているか、4. 事前に競技に関する情報を得ているか、5. 好きな選手はいるか、6. 他の公営競技を観戦するか、7. 他のスポーツを観る感覚と同じか、8. 競技をスポーツとして捉えることはできるかという項目を設定し、得られたデータを種目ごとに「競馬」「競輪」「競艇」に分け、さらにそ

れらを合計した「3 種目総合」を加え、それらの分析結果から公営競技の観戦者の特性を考察した。

結果と考察

1. 観戦者の基本的特性

性別については、3 種目とも男性の割合が 90%以上を占め、年齢についても平均年齢が競馬で 52.5 歳、競輪で 70 歳、競艇で 72 歳と、SSF「スポーツライフ・データ」(2004)の成人の性別、年代別の直接スポーツ観戦率と比較しても、先行研究のプロ野球観戦者に行った調査(2002)と比較しても高い値であることから、公営競技の観戦者が他のプロスポーツとは異なった基本的特性をもっていると考えられる。

2. 観戦者の認識について

どの種目においても、観戦者の多くは、競技を「スポーツ」ではなく、「ギャンブル」と捉えており、「スポーツ」と捉えている観戦者でも、他のスポーツを観ている感覚とは違うと回答する観戦者が多いことから、経済的側面が公営競技の観戦者全体の認識の中で大きな存在感をもっていると考えられる。

まとめ

本研究においては、公営競技の直接観戦者の基本的特性、競技への認識など顕著な結果を得ることができた。しかし、調査対象の母体数が少なかったことで、それぞれの競技で関連や比率の差がみられなかったことや、公営競技の一つであるオートレースの直接観戦者への調査を行うことができなかったことなどの点で不完全である。今後の研究において、これらの点を明らかにすることが必要である。また、公営競技の観客動員数を増加させるためには、公営競技観戦者の特性を理解したうえで、観戦行動に影響を与える要因や観戦動機の研究が必要であるといえる。